

風蓮湖の自然と人

ラムサール条約湿地「風蓮湖・春国岱」では、ワイズ・ユースの理念のもと、湿地の生態系を維持しつつ湿地の持続可能な利用を行っています。



夏のアサリ・ホッキ漁

初夏から夏、春国岱の周辺に干潮時、広大な干潟が現れます。そこでは、アサリやホッキなどの海産資源が豊富に獲れ、漁業が行われています。漁期を定め伝統的な手堀り漁で漁獲を制限しながら、いつまでも資源が残るように配慮しています。

冬の氷下待ち網漁

風蓮湖は海水と真水が交じり合っていますが、塩分濃度は湖の上層と下層で異なります。そのため、冬に湖面が厚い氷に覆われる一方で、下層は凍らずに残ります。こういった環境を利用して氷下待ち網漁が行われています。この漁ではコマイ、チカ、ワカサギなどといった魚を獲っています。



根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター



ネイチャーセンターでは、根室市の自然や見られる生き物、オススメポイントなどの情報を専門スタッフが提供しています。また、館内では観察路マップなどの資料を配布しています。

住所 〒086-0074 北海道根室市東梅103番地
 開館時間 AM9:00~PM5:00(4月~9月)、AM9:00~PM4:30(10月~3月)
 休館日 水曜(祝日の場合、その翌々日)、祝日の翌日(土・日は除く)、12/30~1/5
 入館料 無料 電話 0153-25-3047
 ホームページ http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/

風蓮湖・春国岱

見どころガイド



発行: 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター
 発行日: 2014年3月
 作成: (公財)日本野鳥の会

風蓮湖・春国岱の自然

- ラムサール条約湿地である風蓮湖・春国岱は様々な動植物が暮らす楽園となっています。その動植物が織りなす風景はどれもすばらしく、さらに季節ごとに違った姿を見せてくれます。
 ※地図の番号は裏面に掲載している写真の番号と一致しています。各番号の場所では写真のような風景を楽しむことができます。





1 湿地で子育てするタンチョウ(春~秋)

タンチョウの夫婦は春になると湿原のヨシ等を使い巣を作り、最大2つの卵を産みます。ヒナが孵ると両親はせっせと子どものために餌を運びます。しだいに子どもも自分自身で魚などの餌をとれるようになります。そして生後100日ほどが過ぎた頃、ついに子どもは空を飛べるまでに成長します。



2 アッケシソウの紅葉(秋)

毎年9月の下旬頃になると春国岱ではアッケシソウが赤く色づきます。1年草の植物のため、毎年少しずつ見られる場所が変わります。



3 フクジュソウの花(早春)

3月下旬頃、フクジュソウは雪の間から顔を出し始め、光り輝く黄金の花を咲かせます。



4 湖面に浮かぶカモの大群(春・秋)

春と秋には、渡り鳥であるカモの仲間が渡りの中継地である風蓮湖に群れて飛来し、旅の疲れを癒します。その数は多い時で数万という数になります。



5 ミヤマカラスアゲハ(夏)

夏、風蓮湖周辺ではミヤマカラスアゲハやミドリシジミといった美しい光沢を持った蝶が飛び交います。



6 オオハクチョウの飛来(春・秋)

春と秋には、風蓮湖にオオハクチョウの群れが訪れます。秋は11月上旬頃に、春は3月末に飛来のピークを迎え、多い年には3,000~5,000羽ほどが渡ってきます。



7 エゾシカ(通年)

エゾシカは6月頃に出産のピークを迎えます。初夏から夏にかけて、写真のような親子連れのエゾシカが姿を表します。



8 氷上のワシの群れ(冬)

冬、風蓮湖では伝統的漁業である氷下待ち網漁が行われます。その漁で獲れた魚のおこぼれをもらいに多くのオオワシ、オジロワシが渡ってきます。



9 ハマナスの花(夏)

夏になると砂浜などでハマナスがピンク色の大きな花をつけます。ハマナスの茎にはトゲがあり、ノゴマなど草原を住処とする小鳥たちは、ハマナスの枝の中に自分たちの巣を隠し、キツネなどからヒナを守ります。



10 干潟を訪れるシギ・チドリの仲間(春・秋)

シギやチドリの仲間は渡りの途中に干潟を訪れ羽を休めます。貝やゴカイなどを食べ、栄養補給が済むと、次の旅へと旅立っていきます。



11 立ち枯れの木々(通年)

春国岱は地盤沈下の影響で、毎年およそ7~8mmの速度で沈降しています。それに伴い、海水の影響を受けた木々が次々と枯れています。